

資料2-1

# 今後の気象の見通し

平成24年7月

日本気象株式会社



## 各地方の梅雨入りの状況

地方	今年	平年差	平年	昨年差	昨年
東北北部	6月16日ごろ	2日遅い	6月14日ごろ	5日早い	6月21日ごろ
東北南部	6月 9日ごろ	3日早い	6月12日ごろ	12日早い	6月21日ごろ
北陸	6月 9日ごろ	3日早い	6月12日ごろ	9日早い	6月18日ごろ
関東甲信	6月 9日ごろ	1日遅い	6月 8日ごろ	13日遅い	5月27日ごろ
東海	6月 8日ごろ	同じ	6月 8日ごろ	17日遅い	5月22日ごろ
近畿	6月 8日ごろ	1日遅い	6月 7日ごろ	17日遅い	5月22日ごろ
中国	6月 8日ごろ	1日遅い	6月 7日ごろ	18日遅い	5月21日ごろ
四国	6月 8日ごろ	3日遅い	6月 5日ごろ	18日遅い	5月21日ごろ
九州北部	6月 8日ごろ	3日遅い	6月 5日ごろ	18日遅い	5月21日ごろ
九州南部	6月 4日ごろ	4日遅い	5月31日ごろ	12日遅い	5月23日ごろ
奄美	4月29日ごろ	12日早い	5月11日ごろ	1日早い	4月30日ごろ
沖縄	4月28日ごろ	11日早い	5月 9日ごろ	2日早い	4月30日ごろ





## 各地方の梅雨明けの状況 (7月10日現在)

地方	今年	平年差	平年	昨年差	昨年
東北北部			7月28日ごろ		7月 9日ごろ
東北南部			7月25日ごろ		7月 9日ごろ
北陸			7月24日ごろ		7月 9日ごろ
関東甲信			7月21日ごろ		7月 9日ごろ
東海			7月21日ごろ		7月 8日ごろ
近畿			7月21日ごろ		7月 8日ごろ
中国			7月21日ごろ		7月 8日ごろ
四国			7月18日ごろ		7月 8日ごろ
九州北部			7月19日ごろ		7月 8日ごろ
九州南部			7月14日ごろ		7月 8日ごろ
奄美	6月29日ごろ	同じ	6月29日ごろ	7日遅い	6月22日ごろ
沖縄	6月23日ごろ	同じ	6月23日ごろ	14日遅い	6月 9日ごろ





## 今年の台風の発生状況 (7月10日現在)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	通年
発生数	平年	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6
	今年	-	-	1	-	1	4							5
	昨年	-	-	-	-	2	3	4	3	7	1	-	1	21
上陸数	平年	-	-	-	-	0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0	-	2.7
	今年	-	-	-	-	-	1							1
	昨年	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	3

6月までの発生数

平年・・・4.1個    今年・・・6個

6月までの上陸数

平年・・・0.2個    今年・・・1個

発生数：平年並み

上陸数：平年より多い



6月に台風が上陸した年：最近10年で1回  
⇒2004年(平成16年)

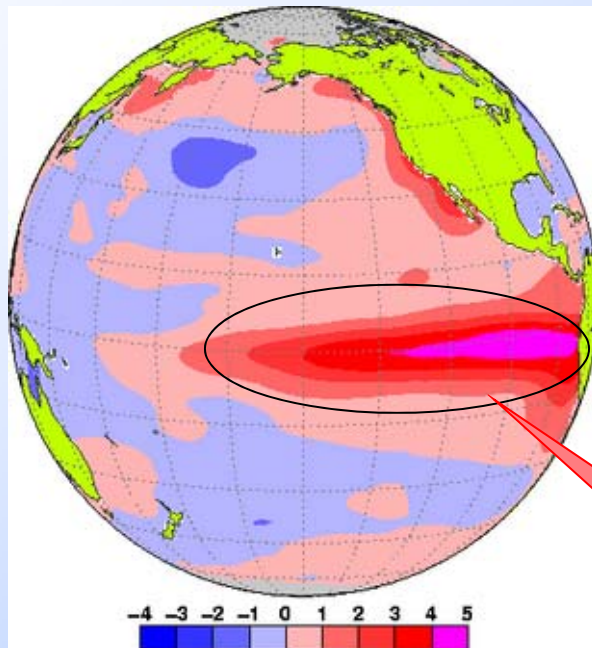
### 2004年(平成16年)夏の特徴

- 北・東・西日本で高温となり、東・西日本では記録的な高温
- 梅雨前線の活動が不活発で高気圧に覆われる日が多く、北日本太平洋側と東・西日本で多照
- 降水量は台風や熱帯擾乱の影響を受けた南西諸島が多かった他は少雨傾向で、地域差が大きかった
- 7月中旬には梅雨前線の活動が活発になり、新潟・福島、福井で豪雨が発生
- 台風は年間を通して29個発生し、10個上陸した中、6月に1個、7月に1個、8月に3個と夏期では5個上陸

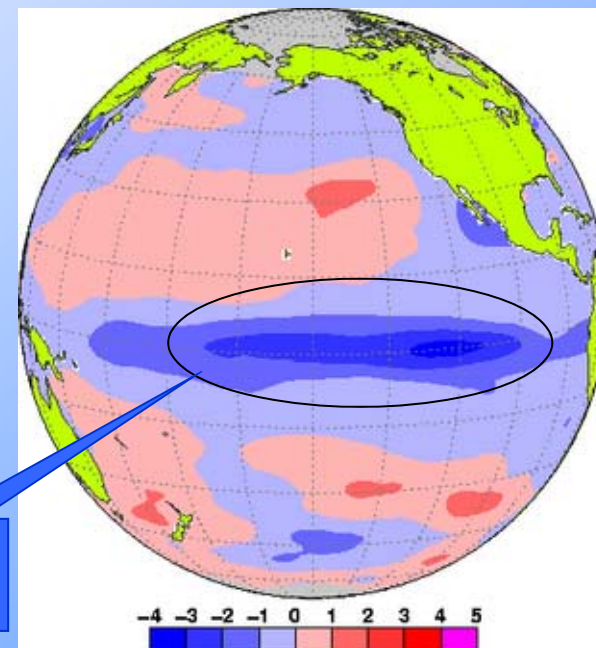


## エルニーニョ現象とラニーニャ現象

エルニーニョ現象とは、太平洋赤道域の日付変更線付近から南米のペルー沿岸にかけての広い海域で海面水温が平年に比べて高くなり、その状態が1年程度続く現象。逆に、同じ海域で海面水温が平年より低い状態が続く現象をラニーニャ現象という。



高い



低い

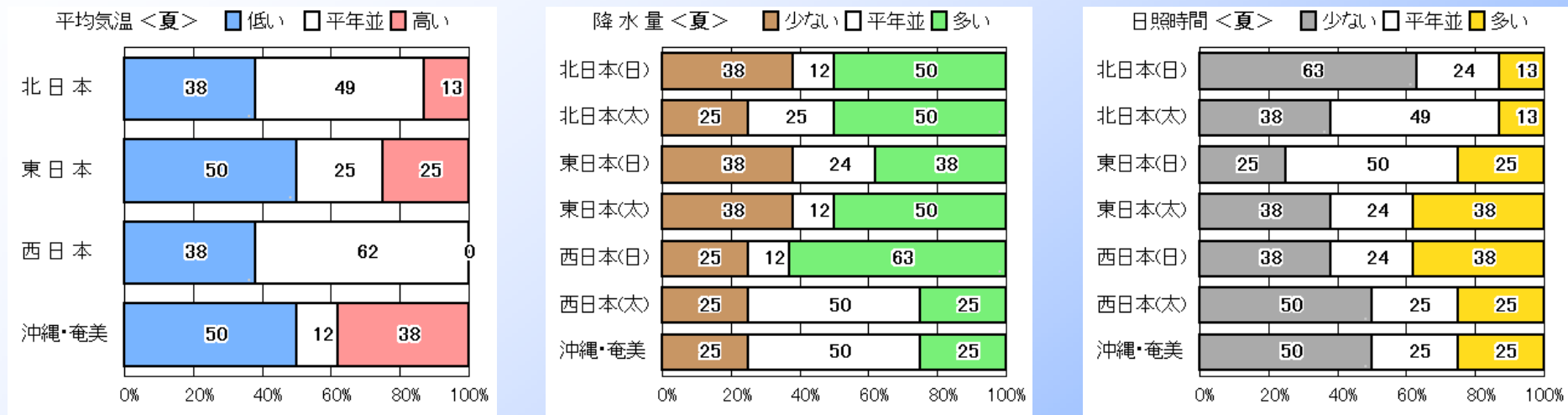
エルニーニョ現象発生時

1997年11月の月平均海面水温平年偏差

ラニーニャ現象発生時

1988年12月の月平均海面水温平年偏差

## エルニーニョ現象発生時の夏(6~8月)の天候の特徴



エルニーニョ現象発生時の夏(6~8月)の天候の特徴(左:気温、中:降水量、右:日照時間)

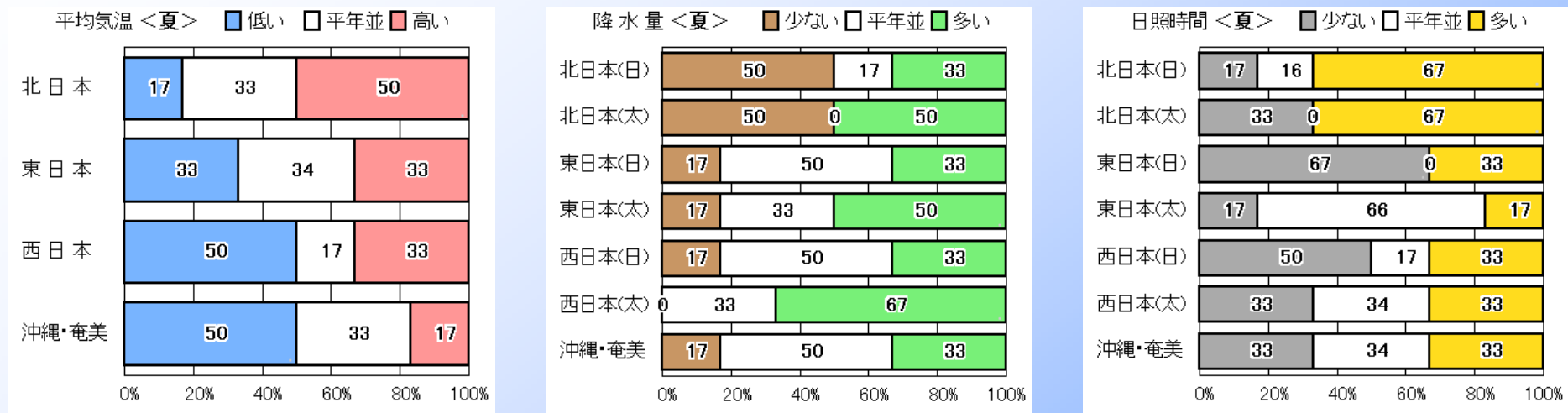
統計期間: 1979年3月~2009年2月。棒グラフ上の数字は出現率を示す。

平均気温: 北日本・東日本・西日本で低い傾向

降水量: 北日本太平洋側・西日本日本海側で多い傾向

日照時間: 北日本・西日本太平洋側・沖縄・奄美で少ない傾向

## ラニーニャ現象発生時の夏(6~8月)の天候の特徴



ラニーニャ現象発生時の夏(6~8月)の天候の特徴(左:気温、中:降水量、右:日照時間)  
統計期間: 1979年3月~2009年2月。棒グラフ上の数字は出現率を示す。

平均気温: 沖縄・奄美で低く、北日本で高い傾向

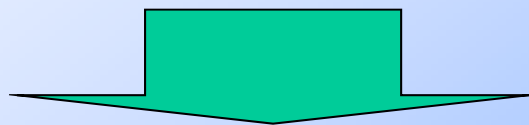
降水量: 東日本太平洋側・西日本太平洋側で多い傾向

日照時間: 北日本で多く、東日本日本海側では少ない傾向



○大気および海上の状況

- ・ エルニーニョ・ラニーニヤの発生する可能性は低い
- ・ フィリピンの東で対流活動が活発になり、沖縄や奄美、西日本への太平洋高気圧の張り出しが平年よりやや強い



7月 ・ ・ 北日本は前半は曇りや雨の日が多いが、後半は周期変化。東日本と西日本は前半は曇りや雨の日が多いが、後半は晴れの日が多い。

8月 ・ ・ 北日本は周期変化。東日本と西日本、沖縄・奄美は晴れの日が多い。

9月 ・ ・ 北日本と東日本、西日本日本海側は周期変化。西日本太平洋側と沖縄・奄美は晴れの日が多い。



## 2012年7月の天候の特徴

- 梅雨前線の活動がやや弱くなる可能性があり、**西日本を中心に降水量はやや少ない傾向**
- 太平洋高気圧の張り出しが**西日本と沖縄・奄美では平年よりやや強く、高温傾向**
- 北日本や東日本では**上空の寒気の影響を受けやすい**

		気温	降水量	日照時間
北日本	日本海側	並み	並み	並み
	太平洋側	並み	並み	並み
東日本	日本海側	並み	並み	並み
	太平洋側	並み	並み	並み
西日本	日本海側	並みか高い	並みか少ない	並みか多い
	太平洋側	並みか高い	並みか少ない	並みか多い
沖縄・奄美		並みか高い	並みか少ない	並みか多い



## 2012年8月の天候の特徴

- 太平洋高気圧が**西日本を中心にやや強く張り出し高温傾向**
- 東日本も太平洋高気圧に覆われやすく、太平洋高気圧の北日本への張り出しは平年と同程度
- 太平洋高気圧に覆われやすい**西日本と沖縄・奄美では晴れの日が多く、少雨傾向**

		気温	降水量	日照時間
北日本	日本海側	並み	並み	並み
	太平洋側	並み	並み	並み
東日本	日本海側	並みか高い	並み	並み
	太平洋側	並みか高い	並み	並み
西日本	日本海側	並みか高い	並みか少ない	並みか多い
	太平洋側	並みか高い	並みか少ない	並みか多い
沖縄・奄美		並みか高い	並みか少ない	並みか多い



## 2012年9月の天候の特徴

- 太平洋高気圧が日本の南海上を中心にやや強く、東日本や西日本、沖縄・奄美は高温傾向
- 北日本は寒気の影響を受けやすくなる可能性がある
- 秋雨前線が日本付近でやや活発になり東日本や西日本ではやや多雨傾向

		気温	降水量	日照時間
北日本	日本海側	並み	並み	並み
	太平洋側	並み	並み	並み
東日本	日本海側	並みか高い	並みか多い	並みか少ない
	太平洋側	並みか高い	並みか多い	並みか少ない
西日本	日本海側	並みか高い	並みか多い	並みか少ない
	太平洋側	並みか高い	並みか多い	並みか少ない
沖縄・奄美		並みか高い	並み	並み

## 2012年夏の予報(まとめ)

- エルニーニョの発生する可能性もある
- 西日本～沖縄・奄美への太平洋高気圧の張り出しがやや強い
- 太平洋高気圧のやや強い勢力が続き、北からの寒気も流れ込みやすくなるため、秋雨前線が日本付近でやや活発になる



7～8月は西日本～沖縄・奄美で平年より**降水量が少なく、気温が高い**

⇒注意事項：水不足と厳しい暑さ

9月は西日本～東日本で**降水量が多く、気温も高い**

⇒注意事項：局地的な大雨、洪水、土砂災害と残暑



## 最近5年の10月の天候

### 2011年(平成23年)

- ・北日本から西日本にかけて気温の変動が大きかった
- ・沖縄・奄美では顕著に降水量が多く、日照時間が少なかった
- ・下旬に九州南部、四国などで記録的な大雨となった

### 2010年(平成22年)

- ・月平均気温は全国で高かった
- ・中旬の終わりには奄美地方で記録的な大雨となった
- ・北・東日本太平洋側と西日本、沖縄・奄美では月間日照時間がかなり少なかった

### 2009年(平成21年)

- ・台風の上陸・接近により太平洋側と沖縄・奄美で降水量が多かった
- ・全国的に気温の変動が大きかった
- ・沖縄・奄美では日照時間がかなり少なかった

### 2008年(平成20年)

- ・全国的に高温となった
- ・北日本と西日本日本海側では降水量が少なく、東日本日本海側と沖縄・奄美では日照時間が多かった

### 2007年(平成19年)

- ・気温は全国的に高く、西日本と沖縄・奄美でかなり高かった
- ・降水量は北・東日本の日本海側、西日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった



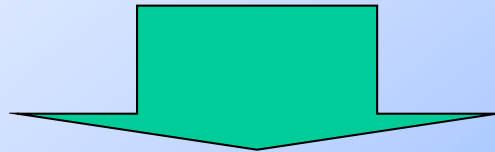
## 2004年(平成16年)10月の天候(6月に台風が上陸した年)

2004年(平成16年)10月の天候の特徴

○台風22号が伊豆半島付近に上陸、また台風23号が四国に上陸し各地で暴風雨となった

○南西諸島への台風の接近数も10月は3個で1951年統計開始以来の最多となった

○相次ぐ台風の上陸や秋雨前線の影響により、降水量が東・西日本を中心に平年を大きく上回った



概況：大陸からの高気圧に覆われて全国的に晴れる時期もあったが長続きしなかった。台風や秋雨前線の影響を受けやすかったため曇りや雨の日が多かった

気温：東北地方から関東地方にかけての太平洋側と南西諸島の一部を除いて、平年を上回ったところが多かった

降水量：東日本と西日本を中心に平年を大きく上回り、東北地方南部から東海地方にかけてと西日本の一部で月降水量が平年の300%以上となったが、北海道では平年を大きく下回った

日照時間：北海道の一部と西日本の太平洋側を除いて平年を下回り、東北地方では平年の80%以下となったところがあった



# 終了

※本資料は、気象庁発表資料を基に作成しました。